

みんぱくワールドシネマ

映像から考える〈人類の未来〉



©Vidhu Vinod Chopra Films Pvt. Ltd.

第52回上映会

2022年9月24日[土] 13:00~16:15(開場12:30)

※開場時間と上映開始時間がこれまでより30分早くなっております。

場所 国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール(講堂) **要展示観覧券**

定員 200名 事前予約の方へ入場整理券を11:00から本館2階会場入口にて配付します。

主催 国立民族学博物館

Lage Raho Munna Bhai

2006年/インド/144分/ヒンディー語/日本語字幕付き

監督/ラージクマール・ヒラニ

出演/サンジャイ・ダット アルシャド・ワルシ ヴィディヤ・バラ

司会 松尾瑞穂(国立民族学博物館 准教授)

解説 杉本良男(国立民族学博物館 名誉教授)

申込方法

事前予約制(先着順)での開催となります。受付期間: 2022年8月22日(月)10時~9月16日(金)17時(定員になり次第受付終了)

当館ホームページのイベント予約サイトよりお申込みください。(代表者を含め2名まで)

電話でのお申込みも受付可。次の必要事項をお知らせください。

①イベント名 ②参加人数(代表者含め2名まで) ③氏名(漢字、フリガナ) ④連絡先(固定電話/携帯電話/メールアドレスのいずれか)
(③、④は代表者のみ)

【申込先】企画課博物館事業係イベント予約受付 Tel: 06-6878-8210 (10時~16時 土日祝を除く)

受付期間内に定員に満たない場合のみ当日参加を受理可。予約状況はイベント予約サイトでご確認ください。

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、イベントを変更・中止する場合がございます。また、ご入館に際しては感染症対策にご協力ください。

詳しくはホームページをご確認ください。 ※解説時に手話通訳が必要な方は9月2日(金)までにお申し込みいただき、その旨をお知らせください。



イベント予約サイト↑



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

関西から

文化力
POWER OF
CULTURE

みんなくワールドシネマ

映像から考える〈人類の未来〉

国立民族学博物館は2009年よりさまざまなテーマを設定し、研究者による解説付きの映画上映会「みんなくワールドシネマ」を開催してきました。今年度も「映像から考える〈人類の未来〉」をテーマとし、世界の人びとのさまざまな生活・考え方を描いた映画とともに、よりよい未来を考えていきます。今回の作品はインド映画「ムンナ兄貴とガンディー」です。ヤクザ者のムンナがひょんなことからガンディーの幻に出会うようになり、彼の助言を実際の社会や日常生活の中で実践していくという奇想天外なストーリー。インド映画の名作として名高いこの作品をとらえて、現代社会におけるガンディーの思想について改めて考えたいと思います。

第52回上映会

2022年9月24日(土) 13:00~16:15 (開場12:30)

※開場時間と上映開始時間がこれまでより30分早くなっております。

場所 国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール(講堂) **要展示観覧券**

定員 200名 事前予約の方へ入場整理券を11:00から本館2階会場入口にて配付します。

主催 国立民族学博物館

協力 在大阪・神戸インド総領事館 / 東京外国語大学 TUFS Cinema

Vidhu Vinod Chopra Film Pvt.Ltd. / Director Rajkumar Hirani (India)

ムンナ兄貴とガンディー Lage Raho Munna Bhai

2006年/インド/144分/ヒンディー語/日本語字幕付き

監督/ラージクマール・ヒラニ

出演/サンジャイ・ダット アルシャド・ワルシ ヴィディヤ・バラン

司会 松尾瑞穂 (国立民族学博物館 准教授)

解説 杉本良男 (国立民族学博物館 名誉教授)

映画解説

ふとしたきっかけでマハトマ・ガンディーの幻影が見えるようになったヤクザ者が、ガンディーの信念を柔軟かつ大胆に応用して現代の理不尽に立ち向かう、日本劇場未公開の痛快コメディ。義侠心溢れる弟分を引き連れ、時には暴力にも訴えてきたムンナ兄貴は、憧れの女性DJに好かれたい一心で、自身を大学教授と偽り不慣れた猛勉強に励んだところ、かのガンディーが彼の眼前にのみ姿を現すように。強力な守護神を得て、ラジオのお悩み相談を引き受けた彼は、ガンディー直々の回答を自己流に咀嚼し伝え、ムンバイ中の大衆の心を掴むが、第二の人生を楽しむための高齢者施設も兼ねた、愛しの彼女の邸宅乗っ取りの目論む魔の手が忍び寄る。後に「きつと、うまくいく」(09)などの傑作を生むラージクマール・ヒラニ監督は、屈強な腕っぷいで渡り歩いてきたアウトローが、愛や非暴力の尊さに目覚めて変貌するさまや、社会の裏も表も知る彼らしい実感こもる言葉に突き動かされる人びとを、巧みな伏線や細やかな描写を重ねて生き生きと映し出す。ガンディーとは似ても似つかぬ男の飛躍を通し、その哲学に新たな光を当て、誠実に心を開き行動で示すことの意義を改めて謳う、映画大國インドならではの味わい豊かな佳篇だ。(映画評論家 服部香穂里)

ガンディーを再認識させたインド娯楽映画

インドのガンディーを扱った映画は、イギリスのアッテンボロー監督による「ガンディー」(1982年)にすっかりお株をとられた感があるなかで、「ムンナ兄貴とガンディー」は、直接ガンディーの生涯を扱ってはいるわけではないが、その存在が重要な意味を持つ映画である。この映画は典型的な Bollywood 娯楽映画で、ヤクザ者のムンナ・バイを主役にしたシリーズの二作目である。主演はサンジャイ・ダットで、第一作目には父役として実父の大スター、スニル・ダットが出演していた。ストーリーが荒唐無稽である上に、私生活でもなにかと問題の多いサンジャイ・ダットが主役をつとめていて楽屋落ちに笑えるのだが、映画は大ヒットとなった。大衆娯楽映画部門をはじめ4部門で2006年度国民映画賞をうけたほか、国内の映画賞を数かず獲得した。さらに、海外からの批評もすぶるよくて、国際的に高く評価され、さまざまな栄誉を受けている。「ムンナ兄貴とガンディー」は、アッテンボロー版の「ガンディー」に対するインドからの応答のようになった。ガンディーに学んで行動するそれまでの「ガンディー主義」をもじった、より大衆的な「ガンディーギリ」(ガンディー気取り)を流行させて社会的にも大きな影響を与えたのである。(杉本良男)

映像から考える〈人類の未来〉

国立民族学博物館 准教授 菅瀬晶子

映画がこの世に誕生して、120年あまり。最初は日常生活の一端を切り取ったものでした。いまや日本では年間に1300本に迫る数の映画が公開され、その内容も多種多様です。世界のさまざまな地域で、現在進行形で起きている問題を扱う作品も年々増えてきました。問題意識を喚起する手段として、映画は実に有効なのです。

みんなくワールドシネマでは、所属する研究者の個別研究や現在進められている研究プロジェクトの内容に沿った映画を選び、その内容を研究者が解説することによって、最新の研究成果と映画のより深い理解を観客のみならずと共有することを目的としています。紛争、差別、環境変動などを超えて、異なる価値観を持つ人びとはどう共存してゆくのべきか。終映後、あらたな視座がみなさまの中に生まれれば、さいわいです。



©Vidhu Vinod Chopra Films Pvt. Ltd.

特別展 Homō loquēns 「しゃべるヒト」 ~ことばの不思議を科学する~

2022年9月1日(木)~11月23日(水・祝)

場所 国立民族学博物館 特別展示館

観覧料：一般 880円、大学生 450円



企画展 海のくらしアート展 —モノからみる東南アジアとオセアニア

2022年9月8日(木)~12月13日(火)

場所 国立民族学博物館 本館企画展示場

観覧料：一般 580円、大学生 250円

※詳細は当館ホームページをご確認ください。

次回作品 2023年1月14日(土)予定

ハニーランド 永遠の谷

Honeyland

2019年/北マケドニア/マケドニア語、トルコ語、セルボクロアチア語

86分/日本語字幕付き/ドキュメンタリー映画

監督 リューボ・ステファノフ、タマラ・コテフスカ

出演 ハティツェム・ラトヴァ



©2019, Trice Films & Apollo Media

交通のご案内

- 大阪モノレール...「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分
- バス 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分

※大学生・一般の方は万博記念公園各ゲートで、当館の観覧券をお買い求めください。

同園内を無料で通行できます。

※高校生以下の方、「国立民族学博物館友の会」会員の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、みんなくへ行くことをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。

※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。

